

一般社団法人 日本薬学教育学会 第5回理事会 議事録

開催日時：令和6年5月2日（木）13：00～15：10

開催場所：WEB会議システム（ZOOM）による開催

理事：乾 賢一、中村 明弘、有田 悦子、石川 さと子、入江 徹美、木内 祐二、鈴木 匡、
高橋 一栄、武田 香陽子、長谷川 洋一、平田 收正、松浦 正佳、三浦 典子、山田 成樹

監事：林 正弘、亀井 美和子

<欠席> 小佐野 博史（理事）、木下 淳（委員長）

事務局：横川 和代

議事に先立ち、定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長、林監事、亀井監事が署名又は記名押印することが確認された。

議事：

1. 前回理事会議事録案について（承認事項）

中村副理事長より2023年度第4回理事会の議事録（案）に基づいて議事の概要が報告され、一部修正の上、議事録として承認された。

2. 2023年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）審査結果について（承認事項）

学術担当の鈴木理事より2023年度学会賞について選考委員会による審査結果が資料に基づいて説明された。教育研究奨励賞には2名の応募があったが、選考委員会にて審議を行った結果、「該当者なし」と判断した旨が報告され、理事会にて承認された。教育実践奨励賞には4名の応募があり、選考委員会で審議の結果、1名が候補者として理事会に推薦され、協議の結果、承認された。受賞者と推薦者にはまず事務局から書面で通知し、その後、担当理事から第9回大会での受賞者講演を依頼することが確認された。また、受賞に至らなかった応募者には、選考委員会からのフィードバックを送付することとした。

次年度の公募の際には両賞の評価の観点をホームページ等で公表し、応募者に具体的な要件を発信することとした。

3. 役員選挙の実施について（報告事項）

事務局より役員選挙の進捗状況と今後の予定が資料に基づいて説明された。日本薬剤師会と日本病院薬剤師会も役員改選の時期であり、6月に本学会理事の推薦を依頼する予定。

4. 2023年度の決算・事業報告、2024年度事業計画案・予算案の作成スケジュールについて

事務局より2023年度決算・事業報告および2024年度事業計画案・予算案の作成スケジュールが資料に基づいて説明された。7月下旬から8月上旬に開催する次回理事会において承認を得て、定時社員総会に諮る予定。

5. 第9回日本薬学教育学会大会準備状況報告（報告事項）

三浦理事より第9回大会の準備状況が資料に基づいて説明された。

1) 開催日：2024年8月17日（土）～8月18日（日）

2) 会場：東京薬科大学 教育3号館講義室、教育2号館実習室、学生会館

3) テーマ「薬学教育におけるプロフェッショナリズムとは？」

特別講演

- ・東邦大学医学部 朝比奈真由美先生
- ・岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎和彦先生

シンポジウム 20 件の応募があり、すべて採択
ワークショップ 9 件の応募があり、すべて実施
ポスターセッションでの発表演題は募集中

一般会員に向けて事前登録および一般演題募集の案内を事務局から発信することとした。
また、JR および京王線の最寄りの駅から会場までのアクセス（バス時刻表など）を大会ホームページに掲載するよう依頼がなされた。

6. 第 9 回日本薬学教育学会大会 シンポジウム（報告事項/連携教育担当）

木内理事より第 9 回大会において多職種連携に関するシンポジウム「これからの多職種連携教育の学修プログラムと課題を共に考える」を日本臨床検査学教育協議会と共催企画し、採択されたことが資料に基づいて報告された。

7. 第 34 回日本医療薬学会年会シンポジウム採択について（報告事項/生涯教育担当）

高橋理事より第 34 回日本医療薬学会年会においてシンポジウム「臨床能力を有した薬剤師の育成に向けた卒業後教育とキャリア形成」を企画応募し、採択されたことが資料に基づいて報告された。

8. 委員会報告（報告事項）

・編集委員会 ※資料有り

入江委員長より資料に基づいて「薬学教育」の J STAGE 公開状況と論文投稿・審査状況が報告された。原著論文の投稿を促進するための「年間優秀賞」などの創設については、引き続き編集委員会で検討する。論文賞を設ける場合、学会賞との区別化が重要であるとの指摘があった。

・薬学教育カリキュラム検討委員会

鈴木委員長より第 9 回大会においてシンポジウムを企画して採択されたことが報告された。

・倫理教育委員会

有田委員長より第 9 回大会でシンポジウム「新コアカリ「総合的に患者・生活者をみる姿勢」を醸成するための教育～臨床現場で直面する倫理的問題とどう向き合うか～」を企画して採択されたことが報告された。

・国際化委員会

武田委員長より 2024 年度は大会シンポジウムを企画するのではなく、科研費申請を行う方針が紹介された。

・ICT 教育委員会

第 9 回大会において企画シンポジウム「薬学教育は生成 AI をどのように活用していくべきか」が採択されたことが紹介された。

・中長期ビジョンワーキンググループ

入江理事より第 2 回ワークショップの開催概要が資料に基づき紹介された。6 月 22 日（土）

帝京平成大学中野キャンパスにおいて現地参加を原則とする 50 名規模のワークショップを企画しており、5 月末を参加締切としている。本学会のミッション・ビジョンは次期役員で検討して決定することを考えている。薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂や薬剤師臨床研修ガイドラインの公表など教育変化の過渡期を迎えており、本学会として若手に情報を伝えることの必要性が指摘された。

9. 担当理事報告（報告事項）

・ 広報担当

石川理事より学会ホームページの委員会ページの整備、会員向けの情報発信を行っており、委員会ページのコンテンツを増やす方針であることが報告された。また、日本薬系学会連合ホームページにおいて、加盟団体として乾理事長名でメッセージを掲載したことが紹介された。

10. 理事長報告（報告事項）

(1) 日本薬系学会連合 第 1 回設立記念フォーラムについて

乾理事長より第 1 回設立フォーラムの開催について資料に基づき紹介された。

(2) アジア薬科大学協会 2025 カンファレンス 日本開催の案内について（資料あり）

Education forum が 3 月にタイで開催された。乾理事長は 2022 年と 2023 年に president、2024 年と 2025 年は immediate past president を務めており、AASP の理事は乾理事長と日本薬科大学の都築学長が務めている。Conference を 2025 年 8 月 1 日～4 日に日本薬科大学主催で開催する予定で、薬学教育協議会とも情報共有を行っている。

11. 会員登録状況報告（報告事項）

事務局より資料に基づいて 2024 年 5 月 2 日時点の会員数の増減・会費納入状況が報告された。個人会員は 757 名で 2023 年度の会費納入率は 84.4%、学生会員は 56 名で会費納入率は 30.3%、機関会員は 67 件で会費納入率 98.5%、賛助会員は 7 件で会費納入率 85.7%であった。会員数は全 887 件で、年度替わりによる定年退職や卒業により会員数が 15 減少した。機関会員に未入会の大学や新設大学に対しては機会を捉えて広報等を行っていくことが確認された。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2024 年 7 月 31 日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘

監 事 亀井美和子